

議会視察研修を実施

視察日 平成27年11月18日～20日

○今回の視察経費は議員報酬の中から、それぞれが負担しました。

「野島断層保存館」

(兵庫県淡路市)

大震災のときに出現した淡路島の野島断層を約140メートルにわたり、そのままの状態に保存。併せて、実際の断層断面も保存している。また、被災寸断されたままの道路や、家屋なども保存され、震災の甚大な被災状況を伝えている。年間約15万～18万人ほどが見学に訪れているとの事、特に児童・生徒の社会見学の場として活用されている。

このような大震災の被災状況がいかに次世代に伝えていくかは、白馬村でも課題である。神城断層地震の場合は、野島断層に比較して地表に出現している断層部分も小さいので、同様な形態をとることはできないと思われるが、現在の状況を後世に活かせるような保存と防災への活用は強く求めていきたいと考える。



140mもの断層を建屋に保存

「ごみゼロ運動への取り組み」

(徳島県上勝町)



活かせば財産。分ければ資源。上勝町のごみゼロ理念

リサイクル業者を経て再資源化されている。ステーションには、無料のリサイクルショップ「くるくるショップ」が併設されており、まだ使用できる不要なものを、新たに必要とする人が引き取っていく中継所の役目をしており、年間10トンが持ち込まれ、約8トンが引き取られていっているとの事である。住民全体が意識を持って取り組んでいる状況は、非常に参考になった。

「葉っぱビジネス」

(徳島県上勝町)

全国に先駆けて2005年に「ゼロ・ウェイスト」(注)宣言を出し、未来の子どもたちにきれいな空気、おいしい水豊かな大地を継承するため、2020年までに上勝町のごみをゼロにする決意を表明して、町民全体で「ごみゼロ運動」に取り組んでいる。町内には、1ヶ所のごみステーションがあるのみで、運営は民間NPO法人に委託している。受け入れは年末年始を除いた毎日の午前7時半から午後2時までで、回収業者はなく、住民自らが持ち込み、その場で分別している。ごみの分類は現在34種類、

有名な「彩(いろどり)事業」は、昭和61年に4軒の生産者と、当時の農協職員(現在は事業者の代表取締役社長)1名とで始めたものである。背景としては、林業の衰退で樹木が増えてきたこと、寒波に襲われ主産業であるミカンの木が全て枯死してしまったことがあるという。



葉っぱビジネスの後継者募集(インターンシップ事業)

取り組みから30年近く経っているということもあり、すでに完成されたビジネススタイルであった。会員は189名ほどで、年間売上総額約2億1200万円である。

当初から情報の共有化に力を入れ、現在では、タブレット端末を導入し、市場のニーズが会員に情報として流され、瞬時に供給できる農家が決定されるシステムが確立されている。

効果的なシステムと、お年寄りが生きがいをもって働いている姿は、今後の白馬の農業や、特産品開発、また観光関連産業の充実に向け、参考になる事例と思われた。

「Fozomichi-uni」

(広島県尾道市)

日本で初めて海峡を横断できるサイクリングロードに併設されたONOMICHI-UNIは、「瀬戸内しまなみ海道」の本州側拠点地として、尾道市が駅前再開発事業と民間活力で賑わいの創出を図ることを目的に、平成26年にサイクリスト向けの複合型施設としてオープンした。

海運倉庫の上屋(うわや)の特性を活かし、広さ約2000平方メートルの施設に、ホテル、レストラン、手作りベーカリー、カフェ、自転車

ゼロ・ウェイスト (注)：燃やして埋めるごみ処理から、ごみの発生自体を減らす政策への転換をめざす考え方